

明けましておめでとうございます。

ラベルニュース

No469



令和7年1月号

東京都ラベル印刷協同組合

編集:広報・情報システム化委員会

☎111-0051 東京都台東区蔵前4-16-4

TEL(3866)4561 FAX(5821)6443

DX化が進む中、使い方の工夫を

令和七年元旦

理事長 北島 憲 高



印刷機などのデジタル機化もだいたい進んできましたが、「デジタル機」の使い方について、細かい説明はここでは省きますが、シール印刷のプロとしてのデジタル機の使い方、さらなる効率化・高収益化や活版・オフセット印刷などの使い分けも一段と良いものになるかと思えます。

印刷機などのデジタル機化もだいたい進んできましたが、材料費の値上げをはじめ、ここ数年のインフレは我々の業界でも非常に厳しい一面もあります。企業価値を支えるプロの技術力に益々磨きをかけていきたいと思います。また研修や最新の業界情報の提供の場として、前回は昨年三月に開催されたラベルフェスタですが、今年八月二日(土)に開催する準備をしているところです。

他、展示会とは違う組合主催ならではのイベントにしていくよう、みんなで知恵を出し合って成功につなげていきたいと思えます。まだ先になりますが、来年には組合創立六〇周年の佳節を迎えることとなります。昭和四十一年にわずか十九社で発足した組合も、私で八人目の理事長になり、業界もこの間若返りが進み、すでに二代目、三代目の時代になっていますが、時代が変わろうと組合の基本である「相互扶助」の精神を忘れてはなりません。「一社では出来ないことを数の力で」というのが協同組合の精神であり、これは今後も変わることはありません。

しかし時代は大きく変化しており、組合運営も時代の変化に対応できるものでなければなりません。新たな時代の組合運営とは何かを模索しながら、組合員の声を聞きながらこの難局に立ち向かっていきたいと思えます。

ただ来た仕事をこなすだけではなく、ここからさらに手を加えたらより良いものが出来るかなどと想

新年あけましておめでとうございます。昨年は能登半島地震と羽田空港での事故に始まりとても不遇な一年の始まりでした。前年には全日シール連合会の年次大会が金沢で行われたこともあり、シール業界でもみな気を揉んでいたのを今も覚えています。さて、電子帳簿保存法も始まり益々DX化が進む昨今ですが、皆さんの会社ではどのようなDX化の取り組みがなされているでしょうか。

専務理事 本間敏道



新年明けましておめでとうございます。昨年一年

間はまさに激動の時代と言っても過言ではないほど大きな出来事が続きました。

一月一日に能登半島地震が起き、その復興を目指している最中に豪雨に見舞われることになりました。そして石破総理の誕生、裏金解散で自民党が三十年ぶりの少数与党に転落、さらにアメリカ大統領選挙で「もしトラからまたトラ」になり、今後に大きな不安を抱えたまま、新年を迎えることとなりました。

業界も原材料の相次ぐ値上げに対応できず、景気の回復も期待できず、小規模・零細業者にとっては相変わらず厳しい状況が続

ています。

今年は巳年です。脱皮をする蛇のイメージから巳年は「復活と再生」を意味します。植物に種子ができはじめる時期、次の生命が誕生する時期など、新しいことが始まる年になるとも言われています。また、「巳」を「実」にかけて「実を結ぶ」年とも言われるようです。

組合事業も様々な事業をこれまで実施して参りましたが、残念ながら組合員離れに歯止めをかけることができませんでした。

ここ数年はラベルフェスタなど外に向かつての事業が多かったように思います。その分組合内部への目配りがおろそかになっていったことは否定できません。今年は組合の足場をしっかりと固めるための事業にも力を入れていきたいと思えます。

それらが今年「巳年」に実を結んでくれることを祈るばかりです。今年一年何卒よろしくお願い申し上げます。

東京都中小企業団体中央会会長 會津 健



明けましておめでとうございます。令和七年の新春を迎えるにあたり、皆様に謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年のわが国経済は、三十三年ぶりの高い水準となる賃上げや過去最高額を更新した企業収益、バブル期の水準を取り戻した日経平均株価など前向きな動きが見られ、緩やかな回復基調が続きました。

しかし、中小企業・小規模事業者は、原材料やエネルギー価格の高騰によるコスト上昇分の価格転嫁が十分に進展しないことに加え、深刻化する人手不足対策としてのいわゆる防衛的な賃上げにより労務費の上昇を招くなど、景気回復の

実感を得られるに至らぬまま新年を迎えました。

このような状況下で本会は、デジタル技術等を活用した販売力強化による業界活性化の先進的な事業実施を目指す取り組みに対する特別支援「デジタル技術を活用した販売力強化プロジェクト」や技術・サービスの高度化・高付加価値化に取り組む中小企業・小規模事業者を支援する「明日にチャレンジ中小企業基盤強化事業」などのほか、新たに業界の実情を踏まえたDX人材育成セミナーの開催を支援する「団体連携型DX人材育成推進事業」を実施しました。

さらに、本年4月に施行される『東京都カスタマー・ハラスメント防止条例』の周知を図るための講習会を開催するなど、組合や中小企業・小規模事業者には有用な情報を提供いたしました。

加えて、昨年十月には、八回目となる「組合まつり in TOKYO」を開催しました。今回も前回に引き続き、リアル展示会をメ

インに据え、都内九五組合・団体、全国三七組合・団体計一三二の組合・団体が出展し、約一万二千人の来場者が訪れ、盛会裡に終えることができました。

さて、国内における少数与党による政権運営、国外では、アメリカ合衆国の第二次トランプ政権がもたらす世界経済への影響、そして不安定な国際情勢など、先行きの不透明感はさらなる高まりを見せています。

このような中、国連総会において「二〇二五年は『国際協同組合年』」と決議されました。これは自助努力に加え、自社だけの解決は難しい問題に対して、関係する事業者と連携を図って共通する経営課題の解決に取り組んできた“中小企業組合”が果たしてきた役割を改めて想起する絶好の機会といえます。

本会としても「相互扶助の精神を誇りとし、協同の力で中小企業、地域社会の未来を切り拓くことを使命とする」の基本理念のもと、中小企業組合や中小企業・小規模事業者への効果

的な支援の実施に努めるとともに、東京都や国に対して中小企業施策の充実のため要望を行うなど、皆様のお役に立てるよう全力で取り組んでまいります。

結びに、本年が皆様にとりまして、明るい希望に満ちた年となることを心からお祈り申し上げます、年頭のご挨拶といたします。

協賛会長 服部 真

環境配慮への取り組みを強化し、共に発展する道を目指そう



明けましておめでとうございます。旧年中は協賛会各社に対し、格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。本年も引き続きご愛顧のほど、よろしくお

願いたします。

さて、ここ数年前から円安起因の原燃料価格や二〇二四年問題に伴う物流コストの上昇、物価高による消費者の買い控えなどが続いており、私たち業界を取り巻く事業環境も極めて厳しい状況下で推移しております。

このような状況でも消費者の環境意識はますます高まりを見せており、私たちも業界全体が、サステナブルな社会の実現のために環境問題を強く意識していく

必要がありますと考えています。例えば省エネルギーや再生エネルギーの利用によるCO2排出量の削減のほか、再生プラスチック素材やモノマテリアル素材などを用いたラベル材料、剥離剤や粘着剤の無溶剤化あるいは剥離紙のリサイクルなどを世の中に積極的に提案していかねければならないと考えています。

この取り組みは一企業で実現できるのではなく、ブランドオーナーや行政・自治体、印刷会社、協賛会各社の理解を得て、一体と

なって強く推し進めていかなければならないと思えます。

私たちは、日本経済の失われた三〇年を乗り越えここにまいります。しかしながら、私たちの業界の現状は、成長期から成熟期へと変化してきているのではないかと懸念しています。まさに

今、私たちが一致協力し、新製品・新市場・新需要を切り拓くことで、明日への一步を踏み出していくべき時だと思えます。

二〇二五年は巳年です。脱皮し強く成長する蛇のイメージから「再生と変化」を意味し、これまでの努力が実を結び始める年とも言われています。

今年もラベルの新たな価値を訴求しながら、市場の変化を的確に捉え、一丸となつてさらなる成長を遂げていきたいと思います。最後に各社様の今後のご発展と皆様のご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

恒例の合同支部会(忘年会)を開催

景気回復に大きな期待寄せる声

組合恒例の合同支部会(忘年会)は、十二月十三日(金)午後六時より、台東区上野の「梅の花・上野広小路店」において開催されました。

本間専務理事の司会で初めに北島理事長が「今年もあと残すところわずかなりましたが、組合の事業にご協力を戴きありがとうございます。来年もまた様々な事業を計画しておりますのでよろしくお願いいたします」と挨拶し、全員



賑やかな合同支部会(忘年会)

で乾杯をしました。

今回は元理事長の弓名持さんや元副理事長の野尻さんなどが参加し、年内で廃業予定のモリタプレスの森田さんなども参加し賑やかな忘年会となりました。この後恒例の福引大会も行われ、景品が当たったのに歓声が上がリ、午後八時過ぎに大澤副理事長の三本締めめでたくお開きとなりました。

恩田製作所が移転

恩田製作所は十二月十七日に先に移転しました。

住所 〒三三〇・〇〇〇
二 埼玉県草加市青柳八、三二・一

電話・〇四八・九五〇・八

六六二

FAX 〇四八・九五〇・

八六六三

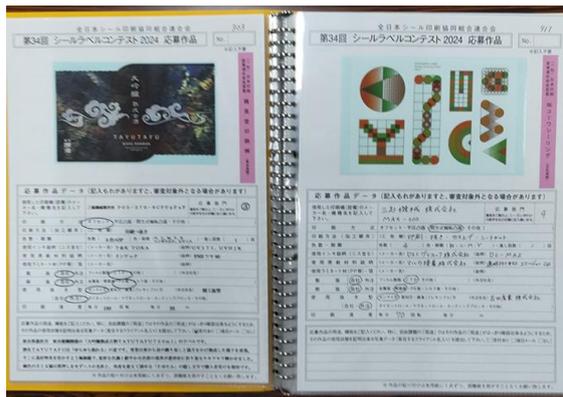
代表者・戸田学

アフターサービス、オーナーホールなど業務は従来通り継続しています。

ラベルコンテスト

作品集を販売中

全日本シール印刷協同組合連合会では、第三十四回シールラベルコンテストの作品集を販売中です。一冊24,500円。希望者は連合会まで。(TEL 03・5830・6788)



た。同社では社是である「至誠と創造」に基づきあらゆるステークホルダーに誠実であること、革新の危害を持って新たな挑戦をくり返していくことが「ものづくり」の会社としての原点であるとの考えから、多岐にわたるCSR(企業の社会的責任)活動を行っています。

今回のレポートではトップメッセージとして二〇三〇年を最終年度とする長期ビジョンの実現に向けた思いや推進状況に言及しているほか、カーボンニュートラルへの取り組みについても紹介されています。

同レポートについての問い合わせは左記まで。

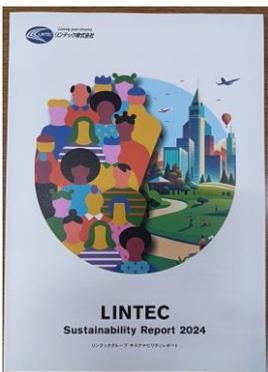
リンテック広報・IR室
電話 03・5248・

7741

<http://www.lintec.co.jp>

リンテックがサステナビリティレポートを

「サステナビリティーレポート二〇二四」を発行しまし



第123回ラベル会
佐倉カントリー倶楽部
大澤雅純氏が見事優勝！
6年ぶりに組合員が



第一二三回ラベル会は、十一月二十八日(木)に「佐倉カントリー倶楽部」に於いて、十八ホール、ストロークプレイ、四組十四名で開催され、昭和レーベ

ル印刷工業の大澤雅純副理事長が優勝しました。本来は前田印刷所の前田智信氏が優勝でしたが、過去三回欠場していたためにラベル会規定により二位の大澤氏が繰り上げ優勝となり、大澤氏は第一〇五回ラベル会以来、九年ぶりの優勝となりました。

また組合員の優勝も、令和元年の第一一二回大会の故平山良一理事長以来六年ぶりとなりました。

二位には三位から繰り上がったマルウ接着の妻鳥洋一氏、三位には本来一位の前田印刷所の前田智信氏が入りました。

ここ最近では組合員の参加者が少なかったのですが、今回は前田氏を初め、北島國芳氏、保坂知彦氏若手の参加で大いに盛り上がった大会となりました。

毎年最後のラベル会恒例となった京成佐倉駅前の「庄屋」で今回も表彰式と忘年会が行われ、賑やか反省会となりました。

【大澤雅純氏談】

今回第一二三回ラベル会に参加させていただき、思

いがけずに繰り上げ優勝となり、自分でもびっくりしています。

二年前に足首を骨折し、この時はもうゴルフは無理かなと思った時期もありましたが、不屈の精神力(?)で不死鳥のようによみがえり、今回繰り上げとはいえ優勝することができましたのは、私の普段の節制の賜物です。(笑)

思い起こせば平成二十三年の郡山熱海カントリー倶楽部での第九十六回ラベル会に初参加した時に優勝しましたが、この時は今回とは逆に初参加のために三位に繰り下がり、その後第一〇五回ラベル会で優勝、今回六年ぶりの繰り上げ優勝とは言え、本当にうれしく思っています。

当日は十一月末とは思えないような絶好のゴルフ日和でしたが、これも私の普段の行いの良さ(笑)。「タナボタ優勝」という陰口も無視し、次回も優勝できるよう、これからも日々節制に努めたい(?)と思っております。

同伴いただいた村田金

箔天野さん、サンワコーケンの高橋さん、リンテック コマースの石田さん本当にありがとうございました。

■優勝・大澤雅純(50.45.95. HD20) ■二位・妻鳥洋一(48.43.91 HD15) ■三位・前田智信(47.46.93 HD19) ■ベストグロ・高橋 範 幸(43.44.87 HD7)

HOYA住所変更

HOYA(株)オペティクス部門は、このほど左記に移転しました。

住所 昭島市武蔵野三の三の一
電話 〇四二・五四六
二五三六
FAX 〇四二・五四六・一一九一

クボタプロセス

代表者を変更

株クボタプロセスは、このほど代表者を久保田成夫氏から、久保田誠一氏に変更しました

太陽機械製作所(大田区羽田空港一の八の二)羽田メンテナンスセンター4F(六八二五-六一二七)では、このほど史上最少のフレキシオン印刷機「TCR200F Tutti」を発売しました。

史上最少のフレキシオン印刷機が「TCR200F Tutti(トゥッテイ)」誕生

同機は先に開催されたラベルフォーラムジャパンで初公開され注目を集めました。六色機でありながら全長五、一五〇mmという小型化を図る一方、最大で毎分百mの高速印刷を実現した。二〇二一年に発表され注目を集めた輪転



ラベル印刷機「TCR200」従来の凸版ラベル印刷機と今回のフレキシオン印刷機を並べて展示しデモンストラクションが行われたが、初めてフレキシオン印刷機の導入を検討しているところにとっては大いに参考になるところ。今後が注目される

主な特徴としては

- コンパクト設計 全長5,150mm(6色機)、通紙パス長約7.8m(巻出し(巻取り迄))
- サーボモーター駆動による見当精度の向上(6色機:9軸制御)
- オーブンチャンバー採用による安定インキ供給と簡単な操作
- 凸版印刷方式と比べ、勘に頼る属人的作業やインキ・キー操作が無く、セッ

ト時間が大幅に短縮可能

Initial Position Control(初期位置制御)を標準装備し、ロスを大幅に削減

基本仕様

- 最大紙幅=200mm
- 最大印刷加工幅=190mm
- 最大給紙径=φ500mm
- 最大巻取径=φ500mm
- 最大カス巻径=φ500mm

印刷

- 版胴円周 174.625mm(254mm(#55~80))
- ピッチ=3.175mm(1/8")

ロータリーダイカット

- 加工幅=190mm
- 円周=:174.625mm(254mm(#55~80))

オプション装置

- 追い刷り装置
- 糊面/裏面印刷装置
- 裏スリッター装置
- 静止画像装置
- シェアスリッター装置/ラベル移行装置

詳細はホームページ。

<https://www.taiyo-kikai.co.jp/>